



第37回全国きき酒選手権大会レポート

〈個人の部〉は 羽矢治郎さん(熊本県)
〈団体の部〉は 高知県チームが連覇



やったぞー！羽矢さん、喜びバクハツ



見事2連覇を達成。高知県チームの小田雄也さん(左)と植田憲尚さん



日本酒造組合中央会

目指せ、きき酒日本一。全国のきき酒名人が鍛錬の技を競う「第37回全国きき酒選手権大会」が10月27日、港区白金台のシェラトン都ホテル東京で開催され、〈個人の部〉では熊本県代表の羽矢治郎さん、〈団体の部〉は小田雄也さんと植田憲尚さんの高知県チームが、新チャンピオンの座を獲得しました。高知県の全国制覇は2年連続。また、今年も特別枠として「大学対抗の部」と「インターナショナル部門」が行われ、多くの若者と外国人参加者が、きき酒への挑戦を通じて日本酒文化の面白さと楽しさを体験しました。



各県代表の本戦はもちろん、「大学生の部」「インターナショナルの部」もハイレベルの闘い。女性参加者の姿も普通の風景に。



35 都道府県の 70 人が激戦。大学生 24 人、外国人 18 人



開会式の模様。開会は正午丁度

「全国きき酒選手権大会」は昭和 56 年にスタートした、日本酒業界きっての長寿イベント。全国のきき酒自慢が「我こそは」と火花を散らす競技の様子が、毎回大きな話題となっています。37 回目を迎えた今大会には、35 都道府県の予選を勝ち上がってきた 70 人がエントリー。年間統一チャンピオンの座をめざして激戦を繰り広げたほか、特別枠の「大学対抗の部」には 12 大学 24 名、「インターナショナル部門」には 8 カ国 18 名の外国人が参戦して各部門の覇を競いました。



日本酒造組合中央会の七田需要開発委員長が開会挨拶。「技を競った後はノーサイドの時間。懇親会で友だちの輪を広げてください」



昨年、〈団体の部〉で優勝した高知県チーム〈小田・植田ペア〉が七田需要開発委員長に優勝杯を返還。



▶ 中央会の濱田理事が競技方法の注意点を説明。「緊張しすぎず、リラックスして日ごろの成果発揮を」

◀ 選手宣誓は、昨年、〈団体の部〉準優勝の奈良県チーム（福本・井浜）。「日本酒を慈しみ、日本酒を楽しんで全力できき酒することを誓います」



きき酒競技に先だち、酒造方法や料理との相性など基礎知識を問う筆記試験に挑戦（20 分）



7種類の日本酒をマッチング。静かに熱く熾烈な闘い



静まりかえった会場に、白熱の気合いが満ち渡る。

香りを確かめ、口に含み、じっと考え、メモを取って、次に進む。きき酒競技本番は午後1時スタート。競技方法は、7種類の日本酒（純米吟醸酒、大吟醸酒、純米酒、本醸造酒、生酒、低アル酒、普通酒）を2回きき酒して、好みの順位を合わせるマッチング法で、選手たちは5つの組に分かれて、各々15分の制限時間の中で熾烈な闘いを展開。競技を終えた選手たちは「時間が短かすぎて慌てたけど、とても面白かった」（コロンビア人参加者）「地方大会のほうがハイレベル。優勝の自信あり」（宮城県代表）などと、リラックスした表情で手応えを語っていました。



審査委員長は(独法)酒類総合研究所の関弘行理事



「大学対抗の部」の闘い。「サークルで訓練した成果が出せたと思います」と参加者。



こちらは「インターナショナル部門」。きき酒姿も堂々たるもの。



勝負の決着は、17人でのプレイオフへ。



プレイオフの時間を利用して、酒総研の藤田晃子主任研究員が「清酒のにおいとその種類」についてミニセミナー。



連覇の植田さん、初参加の小田さん、挑戦 2 回目の羽矢さん



団体優勝した高知県チームの小田さん・植田さん（中央の 2 人）と個人優勝の羽矢さん（右から 2 人目）を囲み記念撮影。右端は全国農業協同組合連合会・米穀部の神田原材料課長、左 2 人目は中央会の篠原会長、左端は日本酒マスコットのおちょこくん

競技終了後、懇親パーティの中で行われた表彰式では、篠原会長と全農の神田原材料課長が、各部門の入賞者に優勝杯と賞状、記念品（日本酒と全農提供のお米券など）を手渡して、それぞれの活躍を賞賛。栄冠を手にした各氏は「昨年も団体の部で優勝したが、今回は相方の小田さん助けてもらった感じ」（植田さん）、「初参加ですが、一週間前に植田さんに特訓してもらったのが良かった」（小田さん）、「2 回目の挑戦で優勝できました。筆記試験も猛勉強したので、うれしさひとしおです」（羽矢さん）と喜びを語りました。



団体の部 3 位は福本知恵さんと岸田哲夫さんの鳥取県チーム



団体の部準優勝は石田真人さん（右）と房野幸蔵さんの京都府チーム



小田さんは個人の部でも 3 位に



個人の部準優勝は埼玉県安曇千鶴子さん



「大学対抗の部」優勝は東京大学チーム（中央の 2 人）、準優勝は大阪大学チーム（左の 2 人）、第 3 位は新潟大学チーム（右の 2 人）。



「インターナショナル部門」優勝はデビッド・チークさん（米国）、準優勝はリ・リンさん（台湾）、ジェシカ・コズカさん（米国）。



闘い済んでノーサイド。参加者全員で懇親のひととき



懇親パーティは、中央会の篠原会長の発声による「日本酒で乾杯！」で開会。参加者は、全国の銘酒とホテルの豪華な料理を楽しみながら、お互いの健闘を称え合ったり、競技の感想を語り合ったりして、闘いの後の歓談を楽しみました。



「きき酒は面白くて、難しい競技。参加者の皆さんは毎年レベルアップしていて驚かされます」（篠原会長）。



来年こそ、優勝するぞ～



関審査委員長の正解発表に、歓声やため息が。



「きき酒に大切なことはNo.ですか」（学生）「何たって日々の訓練だね。つまり、よく飲むこと」（本戦参加者）

ムズカシカッタケド、タノシカッタ

